

労組の定期大会

政策要求の取り組み強化へ

政策決定へ影響との発言力強化へ

今後の運動方針などを決める主要産別の大会シーズンが終わった。各産別共通の特徴として指摘できるのが、産業政策や制度政策要求の取り組み強化を打ち出していることだ。

とくに連合系産別は昨年夏の政権交代によって、組合の要求が通りやすくなったことがその背景にある。こうした政治面における追い風を生かし、労働組合は政策決定への関与と発言力を強める方向が鮮明になったといえる。

大会では政策立案とその実現に向けた体制整備を提起した産別が目白押しだった。以下で、提起された方針や発言のなかから、各産別の動向をみる。

化学・エネルギー関係組合でつくるJEC連合（一七万人）の小柳正治会長は定期大会のあいさつで、「民主党政権下となり、産業政策活動における産別組合の役割が高まった。私たちが策定した産業政策を民主党政権と太いパイプを持ち、機会を活かす。そのため、友好議員との連携がますます重要となる」とし、組合活動における産業政策の重要性を強調した。

JEC連合は、運動方針で政策制度要求の具体的な取り組みとして、政策委員会を設置し、政策全般をまとめた政策集を策定すると提起。そのうえで、

政策の実現に向けて友好関係にある国會議員で構成する「JEC連合政策フォーラム」の活動を拡充・強化することを確認した。

金属機械関連の中小労組が多いJAM（三九万人）でも産業政策について、昨秋立ち上げた産業政策プロジェクトで、業種別部会、地方JAMや単組に加え企業も対象にヒアリングを重ねてきている。これを踏まえて、定期大会では産業構造の転換を視野に入れ、競争力のある産業・企業の再構築に向けた産業政策の立案を目指すとしている。同時に、政策実現のため、産官学を巻き込んだ地域ネットワークづくりを進める考えだ。

さらに、フード連合（一〇万人）の渡邊和夫会長もあいさつで、「民主党政権下にあることを考えれば、産別としてこれまで以上に、食品産業政策に対してより具体的に精緻なものを築き上げていく必要がある。とりわけ食料品の軽減税率のあり方等税制に係わる考え方の策定が、早急に求められている」などと述べ、産業政策に注力していく意向を明らかにしている。

労使連携しての政策実現も射程に

繊維や化学、流通、外食サービスなど幅広い産業を組織する民間最大産別のUIゼンセン同盟（一〇三万人）の

定期大会では、産業振興と雇用の安定・労働条件の改善を両立させるための取り組みの方向性を示す「第四次繊維産業政策」「第五次流通産業政策」「ホテル・レジャー産業政策」の三つの産業政策を確認した。既存の「化学・薬粧産業政策」「食品・フードサービス産業政策」と合わせ、同産別では各業種の政策がほぼ出揃う格好となった。大会では、業種別部会を中心にその実現に取り組みむとともに、業種別労使会議を充実・拡大させていく必要があることも確認した。

自動車総連（七六万人）の定期大会で決めた運動方針でも、政策活動の強化を打ち出した。政策の立案↓推進↓実現↓評価の通年サイクルを明確化し、自動車関係諸税や地球環境対策などの自動車産業に関する課題だけでなく、社会保障制度や社会的セーフティネットの構築、雇用・労働に関する法制度の見直しについても、政策スタンスを明確にして、実現を求める。

さらに、運動方針では、「労使が垣根を越えた活動に取り組むことが極めて重要である」と提起。既存の日本自動車工業会との産業労使会議だけではなく、日本自動車部品工業会、日本自動車販売協会連合会、日本陸送協会などの経営者団体とも日常的なコミュニケーションを充実させ、連携を強める

考えた。

利害対立が顕在化する分野も

一方、個別の産業政策では、民主党のマニフェストや連合の政策と一致せず、産業界で利害対立が避けられない分野もある。

とくにエネルギーや交通政策でそうした傾向がある。こうしたなか、連合は八月の中央執行委員会で「エネルギー政策に対する連合の考え方」を確認した。現在、計画中の原子力発電所の新増設を「地域住民の理解・合意と幅広い国民の理解を前提に、これを着実に進める」などと明記した。原子力エネルギーの推進等について、連合では構成組織間で利害が異なることから、長年にわたって意見の調整がつかない政策分野だった。原子力エネルギーの利用促進については、連合内にも異論があるが、今回、初めて、推進の方向性を明確に示したことになる。

交通分野では、民主党マニフェストで掲げる目標と産別政策の食い違いが目立つ。私鉄総連やJRの産別などは、高速道路料金一〇〇〇円や一部無料化により鉄道やフェリーの経営が脅かされていると異論を唱えている。

こうした利害対立が顕在化する分野はあるものの、労組の政策要求へのウエートは明らかに高まってきている。

（調査・解析部）